

令和3年度卒業証書授与式 式辞

ここ数日の暖かさに校庭の桜のつぼみも膨らみ始めました。春の息吹を感じるこの佳き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、こうして卒業証書授与式を行うことができることをまずもってお礼申し上げます。

本日、加計小学校を巣立っていく十三名の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。先ほど皆さんに手渡した「卒業証書」には、「六年間、小学校でがんばって学んだあなたなら大丈夫！自分を信じて前に進んでいきましょう」というメッセージも込められています。この証書を手にするまでに、自分を陰ながら支えてくださった多くの方への感謝の気持ちを忘れずに、前へ進んでいってください。

さて、加計小学校の教育目標は「気づいて考えてやってみる！」です。六年生教室には、同じ言葉が「学級目標」として飾られています。この一年、皆さんは明るく前向きに「気づいて考えてやってみる」姿を見せてくれました。加計っ子五つの約束「あはそろじ」「壁磨き大作戦」「運動会」「加計っ子祭り」「加計小CMの制作」など、ユーモアを交えながら学校をよりよくする取り組みを進めてくれました。また、伝統のマーチングバンドのバトンも立派に次の学年に引き継いでくれました。学校を預かる私としては、皆さんと一緒にこの「加計小丸」という大きな船を前に進める同志のようでした。そんな皆さんの姿を五年生以下在校生たちは、しっかり見届けました。その思いは受け継がれていくことでしょう。

これから新しい世界に飛び出す皆さんに、私の好きな歌の一節を贈ります。

『負けたら終わりじゃなくて やめたら終わりなんだよね

どんな夢でもかなえる魔法 それは続けること

苦しみ 悲しみ その先見える光 自分の道 ずっとずっとコンティニュー』

コンティニューとは「続ける」という意味の英語です。

どんなことでも「続ける」というのは大切ですが、実はとてもエネルギーがいることです。本気であればあるほど、うまくいかなかったときに心が折れてしまうからです。だから、「続ける」ためには、もう一つ欠かせない力が必要ではないかと最近、思うようになりました。それは「失敗できる力」です。失敗しても次の一步を踏み出すことができること—それが「失敗できる力」です。加計小の目標「やってみる」にはそういう意味も込められています。「やってみてダメならまたやり直せばいい」のです。

今年是一年間で二つのオリンピック・パラリンピックが開催されるというめずらしい年でした。世界中の選手が一堂に集まり、四年に一度の大きな舞台に挑む姿にたくさんの勇気をもらいました。うれし涙も悔し涙もありました。冬のオリンピックで私が印象に残っている二人の選手がいます。フィギュアスケートの羽生結弦選手、スノーボードの岩渕麗楽選手です。この二人は残念ながらメダルを取ることはできませんでしたが、これまで誰も成功させたことのない大きな技にこのオリンピックの本番でチャレンジしたのです。失敗すればメダルが取れないことは分かっていたと思います。それでも、この大舞台でチャレンジしました。これが「失敗できる力」だと思ひ

ます。失敗するのは誰でもいやですし、勇気がいることです。でも、その先に次の自分の未来があるとしたら、ちょっと楽しみになりませんか。加計小で学んだ皆さんには、そんな力を持ち続けてほしいと願います。

最後になりましたが、保護者の皆様一言お祝い申し上げます。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。かわいいランドセル姿から、こんなにも立派に成長した姿を見られ、感慨ひとしおのことと存じます。六年間お子様方をお預かりし、至らない点もたくさんある中、本校教育に多大なるご理解とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。これからもお子様が健やかにたくましく成長されますよう心よりお祈り申し上げます。

名残はつきません。さあ、いよいよ新しい船出です。「錨を上げて」、「学園天国」のような明るい世界に漕ぎ出してください。卒業生の皆さんの未来に、たくさんの幸せが待っていることを祈りつつ、式辞といたします。

令和四年三月十八日

安芸太田町立加計小学校長 萩原英子